

メッセージ 4  
うまずたゆまず祈る

聖書：コロサイ4:2. エペソ6:18. マタイ26:41

I. 「うまずたゆまず祈り、感謝しつつ祈りの中で目を覚ましていなさい」

——コロサイ4:2:

- A. うまずたゆまずとは、耐え忍んで、根気よく、熱心に続けることです。
- B. わたしたちは、うまずたゆまず祈る必要があります。なぜなら、祈りは、戦い、争いと関係があるからです。神とサタンの二者は互いに敵対しており、第三者は神の選ばれ贖われた民から成っています：
1. サタンという名は「内敵」を意味します。サタンは神を打ち破ろうとする外側の敵でもあり、神の領域の内側で破壊しようとする内敵でもあります——参照、啓12:10. ヨブ1:6-12。
  2. 実は、神の選ばれ贖われた民が、神とサタンとの戦いの勝敗を決定します——参照、詩歌640番。
- C. 神の側でサタンに敵対して戦うために、わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります。このうまずたゆまず祈ることが必要であるのは、全世界の方向が神から遠く離れているからです：
1. 祈ることは、墮落した宇宙における潮流、すう勢に逆らうことです。
  2. うまずたゆまず祈ることは、流れに逆らって舟を漕ぐようなものです。もしあなたがうまずたゆまず祈らないなら、潮流によって下流に運ばれてしまうでしょう。
  3. 宇宙全体はサタンの影響下にあり、神のみこころと相対しています。このゆえに、この世には力強い潮流があり、神のみこころに反対しています——参照、Iヨハネ5:19。
  4. 神の側に立つ者たちとして、わたしたちは宇宙全体がわたしたちに敵対しており、また特にわたしたちの祈りに敵対していることを見ます。
  5. わたしたちが日ごとに祈ることで持つ多くの経験が証明することは、サタンが可能な限りあらゆる方法でわたしたちの祈りに反対するということです。祈りに対する抵抗は、わたしたちの外側にあるだけでなく、わたしたちの内側にさえあります。
- D. わたしたちはうまずたゆまず祈ろうとする前に、まずわたしたちの祈りの生活について主に誓願を立てるべきです：
1. 明確に彼に祈り、言いなさい、「主よ、わたしはこの祈りの事柄につ

いてあなたに対して真剣です。わたしは天と地を証人として呼んで、今から祈りの生活を持ちます。わたしは祈りのない人になるのではなく、祈る人となります」。

2. もし、あなたがそのような祈りを主に対して持たないなら、うまずたゆまず祈ることはできないでしょう。わたしたちは彼に言う必要があります、「主よ、わたしはこのことについて死に物狂いです。わたしは自分自身をあなたにささげます。それは、わたしが祈りの生活を持つためです。主よ、祈りの霊の中にわたしを保ってください。わたしがこのことを忘れ、軽視したとしても、あなたはそれを忘れないことをわたしは知っています。わたしに祈りのことを何度も思い起こさせてください」。

3. このような祈りは、主に対する誓願と考えられるでしょう。わたしたちはみな祈りの生活について、主に誓願を立てる必要があります。わたしたちは主に告げるべきです、「主よ、わたしがこの誓願を忘れたとしても、あなたはそれを忘れないことを、わたしは知っています。わたしは最初から、はっきりとあなたに責任をゆだねたいのです。主よ、わたしを放っておかないでください。わたしに祈ることを思い起こさせてください」。

E. わたしたちは祈りに関して主とそのようなやりとりをした後、祈りのために決まった時間を取っておくべきです。これらの時間、祈りが最も優先すべきことでなければなりません。わたしたちの態度は、祈りがわたしたちの最も重要なことであり、どのようなことにもそれを妨げさせてはならないというものであるべきです——ダニエル6:10。

F. 祈りの時間をさらに持つために、わたしたちは一日の時間を節約しようとすべきです。不必要な会話はわたしたちの祈りの霊を弱め、祈りの雰囲気破壊し、祈りのために用いることができた時間を占有します——エペソ5:16。

G. うまずたゆまず祈ることには多くの益があります：

1. 祈りは、わたしたちが思いを上にあるものに置くことができる唯一の道です——コロサイ3:2：

a. わたしたちは祈ることによって、思いを上にあるものに置くとき、ささいな事のために祈りません。そうではなく、わたしたちの祈りはキリストの天のとりなし、務め、行政で満たされます——ヘブル7:25. 8:2. 参照、使徒6:4。

b. わたしたちは祈りの時間に思いを上にあるものに置くとき、天にお

けるキリストの務めの反映となります。わたしたちの祈りを通して、かしらであるキリストは、彼のからだを通して、彼の行政を遂行する道を得ます。

- c. キリストは全世界の諸召会のためにとりなしておられるので、わたしたちも諸召会のために祈ります。
  - d. わたしたちは祈るとき、地上で天の大使であり、神の王国を拡張しています。わたしたちは祈るときにはじめて、実際的ににおいて、天の王国の地上での大使となります——Ⅱコリント5:20。
2. 祈りとは、至聖所の中へと入り、恵みの御座に進み出るための道です。それは、わたしたちがあわれみを受け、恵みを見いだし、わたしたちの時機を得た必要を満たすことできるためです——ヘブル4:16：
- a. わたしたちが祈り、恵みの御座に近づくとき、恵みはわたしたちの中で流れる川となって、わたしたちを供給します。
  - b. わたしたちの祈りが答えられるかどうかは、二次的なことです。主要なことは、恵みが川のように御座からわたしたちの存在の中へと流れ込むことです——詩歌、557番。
  - c. この恵みの川を受けることは、天的な電流をもってわたしたちの霊的な電池を充電することです。この天的な電流、神聖な電気とは、御座からわたしたちの中へと流れる恵みとしての三一の神です。この流れがもたらす供給と享受は言い尽くすことができません——参照、啓22:1. ヨハネ7:37-39。
  - d. 今日のクリスチャンが弱いのは、彼らの霊的な電池が充電されていないからです。彼らは祈りに欠けているので、天的な伝達に欠けています。わたしたちは一日の中で何度も、神聖な電流をもって充電される必要があります——参照、エペソ3:16-17前半。
3. 祈りのもう一つの益は、主との交わりと関係があります：
- a. わたしたちは祈るとき、主との交わりの中へと入り、わたしたちが真に彼と一つ霊であり、彼が確かにわたしたちと一つ霊であるという事実の感覚を得るようになります——Ⅰコリント6:17。
  - b. わたしたちは祈れば祈るほど、主と一であることをますます経験し、ますます彼の臨在を享受し、彼との交わりを持ちます。何というすばらしい褒賞でしょう！
- H. わたしたちは正常なクリスチャンの歩みのために、思いを上にあるものに置き、新しい人の更新を持ち、キリストの平安にわたしたちを裁定させ、キリストの言葉をわたしたちに住まわせる必要があります。祈りは、

これら四つのことの実際の中へとわたしたちをもたらし、この実際の中にわたしたちを保ちます——コロサイ3:2, 10, 15-16. 4:2。

- I. わたしたちは祈りの中で怠慢であるのではなく、目を覚まして、警戒する必要があります。そのように目を覚ますことは感謝をささげることを伴うべきです：
1. 感謝をささげることに欠けることは、祈りがないことのしるしです。祈りの生活は、感謝しつつ目を覚ましていることによって維持されます—— I ペテロ4:7. ピリピ4:6。
  2. もし、わたしたちが絶えず主に感謝をささげるなら、敵はわたしたちを祈りの生活から離れさせることはできないでしょう—— I テサロニケ5:17-18。
- J. 祈りのパートナー（あるいはパートナーたち）を持つことは、わたしたちが祈ることを容易にすることができるだけではなく、わたしたちの祈りの生活を維持することができるようにします——マタイ18:19-20. ダニエル2:17-23。
- K. 「うまずたゆまず祈ることに関して、わたしは再び言いたいのですが、わたしたちは進んで主とやりとりをし、さらには彼に誓願を立てる必要があります。それは、わたしたちが祈る人々となるためです。もし、すべての召会のすべての聖徒が主とそのようなやりとりをするなら、回復は大いに豊かにされ、引き上げられます。さらに、聖徒たちは主と、彼の臨在と、彼の即時的で、恒常的な油塗りとを享受するようになります。彼らは一日中、主の笑顔を楽しみます。わたしたちがうまずたゆまず祈るとき、キリストの生けるパースンはわたしたちの経験と享受となります」（ライフスタディ・コロサイ人への手紙第65編）。
- II. コロサイ人への手紙は、かしらとしてのキリストについての書であり、エペソ人への手紙は、キリストのからだについての書です。両書簡とも、祈るようにとの同じ命令で結んでいます。エペソ第6章18節は言います、「すべての祈りと願い求めによって……. どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい」：
- A. エペソ人への手紙の啓示によれば、わたしたちは実際においてからだの生活を持つために、どんな時にも祈らなければなりません。召会生活を持つことは、絶え間のない祈りにかかっています。
  - B. 「すべての祈り」は、あらゆる種類の祈りを、すなわち、短い祈り、長い祈り、大きな声での祈り、静かな祈り、多くの聖徒たちによる公の祈

り、自分だけのひそかな祈りなどを意味します。

- C. 「このために目を覚まして」 いることは、わたしたちが祈りの生活を維持するために警戒する必要があることを意味します。
- D. 「根気……の限りを尽くし」 は、わたしたちが極みまで持続させ、堅く持ち続けなければならないことを意味します。このことが示しているのは、わたしたちが祈ることを制止し、とどめ、抑圧し、圧迫し、抑制し、妨げるものがあるということです。ですから、わたしたちは根気強くなければならず、放棄してはなりません。

### III. 「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は強く願っていても、肉は弱いのである」——マタイ26:41：

- A. 主イエスが祈りに行かれたとき、ペテロと他の人たちは寝入ってしまいました。主イエスが彼らに目を覚ましていなさいと告げたとき、彼が意味していたことは、「眠ってはならない！ 起きなさい！」です。
- B. マタイ第26章41節の主の言葉によれば、わたしたちはみな今にも眠ってしまいそうな人たちです。わたしたちは肉体的に眠っていないとしても、心理的に、あるいは霊的に眠っています。
- C. 心理的に眠ることは、わたしたちの思い、注意力、聞くこと、認識することが欠けていることを意味しています。霊的に眠ることは、わたしたちの知覚が鈍っていることを意味しています。
- D. 絶えず祈る人となるために、わたしたちは目を覚ましている人、完全に目覚めた人となって、わたしたちの眠っている天然の性質と存在に対して戦わなければなりません。
- E. コロサイ第4章2節とエペソ第6章18節のパウロの語りかけは、マタイ第26章41節の主の言葉と符合します。主は目を覚ましているようわたしたちに告げることに加えて、「霊は強く願っていて」と言いました。またパウロは、「どんな時にも霊の中で祈り」と言っています。
- F. わたしたちは、わたしたちの霊を起き上がらせて、体と心理に対して勝利を得させなければなりません。その後、わたしたちは祈り、すべての願い求めによって祈りのために目を覚ましていることができます。
- G. わたしたちは祈れば祈るほど、ますます祈らなければならなくなり、ますます祈ることを欲し、ますます祈ることができるようになります。目を覚ましていることは、わたしたちが祈りの習慣を建て上げることを助けます。
- H. わたしたちは三重の眠りに、すなわち、肉体的な眠り、心理的な眠り、霊的な眠りに対して戦わなければなりません。

- I. キリストを生き、主と一つ霊になることを実行することは、わたしたちが絶え間なく、絶えず祈ることによります（Iテサロニケ5:17）。そのような祈りの生活を持つために、わたしたちはみな目を覚まし、警戒し、目覚めていることを学ばなければなりません。キリストを生きる習慣は祈りの習慣でなければなりません。
- J. わたしたちは一日中、主を呼び求め、彼に語るべきです。これは絶えず祈ること、すなわち、霊的な呼吸と生活です。霊的な生活とはただキリストを生きることです——詩歌、210番。

©2012 *Living Stream Ministry*